



理科だよ

第4号（9・10月）
2025.8.26(火)発行
有田町立曲川小学校
文責：理科専科 伊東 雅和

理科にとってとても厳しい「酷暑」の夏休みでした

「酷暑」という言葉を何度も聞いた夏でした。わたしたち人間にとっても「酷暑」でしたが、動物や植物にとってもまさに「酷暑」だったようです。

8月上旬に大雨に見舞われましたが、例年より早い6月下旬の梅雨明けからほとんど雨らしい雨が降らず、植物にとっては朝夕の水やりだけでは十分とは言えなかったようです。（水不足というより、気温の上昇のしすぎだったのかも？）また、学校閉庁期間の数日の間で玄関ホール、理科室前の廊下で飼っていたメダカも大きなダメージを受けていました。3年ほど飼っているものも多かったので寿命だったのかもしれませんが、これも高温が原因ではなかったかと思われます。アカハライモリは校舎内だと温度が高くなりそうだったので、校舎と体育館の間の日陰の風通しのよいところに避難させていたおかげで無事でしたが、暑さのせいか食欲がなく、以前より夏やせ（？）してしまった感です。2学期が始まり、学校にも子どもたちの元気な姿が戻ってきたので、学校で飼っている動物たちも元気を取り戻してくれないかなと願っています。

学校で栽培している植物たちのようす



PTA除草作業のおかげで2年生生活科の野菜畑は雑草もきれいに抜かれ、すっきりときれいになりました。ありがとうございました。



さすがに4年生のツルレイシ（ゴーヤ）は熱帯アジア原産なので、暑さにも負けず元気に生い茂り、たくさんの実や花をつけています。



5年生が2学期に使うアサガオは体育館の陰に避難させていたおかげで、ありがたいことに順調に育っていました。



3年生は1人1つずつホウセンカを育てていましたが、3～4本しか夏を越せませんでした。（マルチシートの効果もなかったようです）ヒマワリはなんとか残ってくれていました。



楽しく理科を学べる図書紹介

今で話題になっていると聞いて、昨年度図書室に入れてもらった「つかめ！理科ダマン」シリーズ。本校でもいつも貸し出し待ちで大人気です。内容も理科の授業に繋がっており、教科書に出てくる用語や法則を、楽しいマンガとイラストでわかりやすく解説してあります。理科の授業で学んだことの確認やこれから学ぶことにつながる内容を楽しみながら読めます。図書室にはすでに第9巻まで入っています。（2学期には第10巻が入る予定）



「となりのきょうだい 理科でミラクル」は、おとなりの大山小学校で大人気だということで、図書館司書の中島先生が入れてくださいました。第1巻から第9巻まで入っており、2学期から子どもたちへの貸し出しが始まります。イタズラ好きな兄・トムと、好奇心旺盛な妹・エイミが主人公で、日常の「なんで？」をユーモアたっぷりに探究していくので、子どもが感情移入して読めるそうです。

どちらも、親子で一緒に楽しみながら読める本だと思います。もし、子どもさんが借りてきて読んでいたうだったら、ぜひ、一度手にとって目を通して読んでみてください。親子で不思議を楽しむきっかけになるかもしれません。（私も知らないような豆知識がたくさん書いてありました。）

9・10月の理科の学習

……9・10月は主にこんな学習をします。

6年

「5 生物と地球環境」

- 生物の間には、食う食われるという関係があること。
- 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。
- 地球上の水は循環していること。

などについて学習します。

生物と環境の関わり について、食べ物・空気・水の視点から観察・実験・調べ学習を行い、生物同士のつながりや生態系のバランスについて考え、最後の単元「11かけがえのない地球環境～共に生きる～」へとつなぎます。」

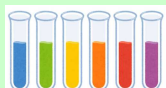


「6 月と太陽」

- 月のかげやいてる側に太陽があること、また、月の形の見え方は、太陽と月との位置関係によって変わる。

などについて学習します。

3年生で太陽の動き、4年生で月の動きを学習していますが、今度は月の見え方が太陽との位置関係で決まることなどを学びます。（下弦の月から再度下弦の月になるまで約1ヶ月続く学習です。）



「7 水よう液の性質」

- 水溶液には、気体が溶けているもの、酸性・アルカリ性及び中性のもの、金属を変化させるものがある

などについて学習します。

子どもたちが大好きな『実験』がメインの単元ですが、塩酸やアンモニア水など危険な薬品も使用するので、緊張感を持たせて学習を進めたいと思っています。酸性・アルカリ性など生活との結びつきも多い単元です。

5年

「5 生命のつながり③

植物の実や種子のでき方」



- 花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができること。

などについて学習します。

花と実が同じ場所からできることに着目し、花のつくりを観察させます。次に、受粉の役割を実験で確認します。「受粉させるもの」と「受粉させないもの」の比較実験では、前回と同様に**「条件統制」**（調べたい条件以外を同じにする）の重要性を考えさせます。毎年、開花前の花からおしべを取り除く作業が難航し、実験がうまくいかないのが課題です。今年は成功させて、子どもたちに受粉の大切さを実感してもらいたいと考えています。（学習時期にあわせ遅めに植えたアサガオが、ようやく咲き始めています。）

「6 流れる水のはたらきと土地の変化」

- 流れる水には、土地を浸食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。
- 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。

- 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があります。

などについて学習します。

子どもたちにとって身近な「有田川」の様子を見せながら学習を進めたいと思っています。「台風と防災」の学習に引き続き、この単元でも『防災』の観点から川について考えさせます。



4年

「◎星や月① 星の明るさや色」

- 空には、明るさや色の違う星があること。

などについて学習します。

こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブから成る「夏の大三角」などを学びます。実際の夜空で見て欲しいので、家庭での星空観察についてお願いのプリントを出しますので、ご協力ください。

「◎季節と生物④ 夏の終わり」

季節と生物の4回目の学習です。夏真っ盛りを過ぎ、身近な動物や植物がどのように変化しているかを観察します。



「5 雨水のゆくえ」

- 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。
- 水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。

- 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。また、空気中の水蒸気は、結露して再び水になって現れることがあること。

などについて学習します。

「水蒸気」「蒸発」「結露」など水の性質に関わる基本的なことを取り扱います。

3年

「5 音のふしぎ」

- 物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること、また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わる。

などを学びます。

まずは、いろいろな楽器を使って音を出すことで、音が出ているときの共通点（「ふるえている」）を見つけます。体感をさせながら多くの気づきを引き出し、学びを進めていきたいと思っています。



「6 動物のすみか」

- 生物は、その周辺の環境と関わって生きていること。
- について、生物（動物）がどのようなところをすみかにしているのかをもとに考えます。

「◎植物の育ち方④ 花がさいた後」

- 植物の育ち方には一定の順序があること。

などについて学習します。

子どもたちが育てたヒマワリやホウセンカを中心にそれぞれの植物は色や形など違い（差異点）はあるものの、その育ちには、くたね→発芽→育つ（成長）→開花→結実（種子）→枯れるという共通の過程を経ることが多いということに気づかせます。